

宮崎県などで採集されたトウガタガイ科貝類ヌノメホソクチキレの記録

三浦知之

〒 880-0035 宮崎市下北方町

Abstract

A pyramidellid mollusk species, *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872) was recorded from Hitotsuba inlet of Miyazaki prefecture, and other tidal flat seashores. Living specimens and soft parts were reported. A very long extruded proboscis was also photographed.

はじめに

宮崎県と鹿児島県を含む日本の沿岸や海岸の底生生物の調査し、多様性の高いトウガタガイ科貝類などを報告してきた(三浦・三浦, 2025 など)。得られた標本を宮崎県総合博物館に登録するため、現在再検討を行っており、順次報告する。本稿では宮崎県、大分県、和歌山県で採集されたトウガタガイ科 1 種のヌノメホソクチキレを報告する。

材料と方法

材料は、2005 年から 2009 年に宮崎県で、2012 年に大分県と和歌山県で採集した。採集後に生きた状態で持ち帰って、可能な限り生体の軟体部を解剖顕微鏡下で観察した。70% Alcohol に保存して、超音波洗浄機を用いて付着物を除き、内肋を観察するため、一部の標本は外殻を研磨して、殻の形態を観察した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

Iphiana Dall & Bartsch, 1904ヌノメホソクチキレ *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872)

(Figs. 1–3)

Obeliscus tenuisculptus Lischke, 1872, pp. 102–103.

ヌノメホソクチキレガイ 土田・堀, 1990, p. 25. pl.1, figs. 1a–c as *Syrnoda (Iphiana) tenuisculpta* (Lischke)

ヌノメホソクチキレ 堀, 2000, p.707, pl. 352, fig. 29; 三浦, 2008, p. 153, 8 text-figs.; 堀, 2017, p.1107, pl. 410, fig. 4 as *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872).

ヌノメホソクチキレ 成ヶ島探見の会, 2023, p. 20, figs. 106Fa, b as *Syrnoda tenuisculpta* (Lischke, 1872).

ヌノメホソクチキレ類似種 三浦, 2008, p. 154, 5 text-figs. as Pyramidellidae gen. sp. C.

採集記録 2005 年 7 月 3 日宮崎市一ツ葉入り江 (1); 2005 年 7 月 9 日同所 (1); 2006 年 7 月 27 日同所 (1); 2007 年 4 月 5 日同所 (1); 2007 年 11 月 3 日同所 (1); 2008 年 2 月 24 日同所 (1); 2008 年 3 月 25 日同所 (1); 2009 年 8 月 26 日同所 (4 + 2 死殻); 2007 年 5 月 30 日新富町富田浜入り江漁港前外側 (1); 2008 年 4 月 8 日同所 (1); 2008 年 9 月 13 日同所 (1); 2008 年 10 月 13 日同富田浜入り江横江川水門前 (1); 2012 年 7 月 22 日大分県大新田中津港外側防波堤脇干潟 (1 死殻); 2012 年 7 月 5 日和歌山市和歌川河口塩竈神社前, Sal. 21.9–24.7‰ (1).

形態・分布・生態 宮崎市一ツ葉入り江から各年の春から秋までに得られ、殻口も備えた 10 標本は殻高 4.0–13.6 mm, 殻径 1.3–3.2 mm であった。胎殻は成貝では損耗も激しいが、欠損は個体により異なった。胎殻は 2.5 階で、第 1 層の一部が後生層に埋まり、約 100–110° 異旋する (Figs.

Miura, T. 2025. Records on a pyramidellid mollusk species from Miyazaki and other prefectures—*Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872). *Nature of Kagoshima* 52: 11–13.

☑ TM: Shimokitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 1 May 2025; published online: 1 May 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-004.pdf

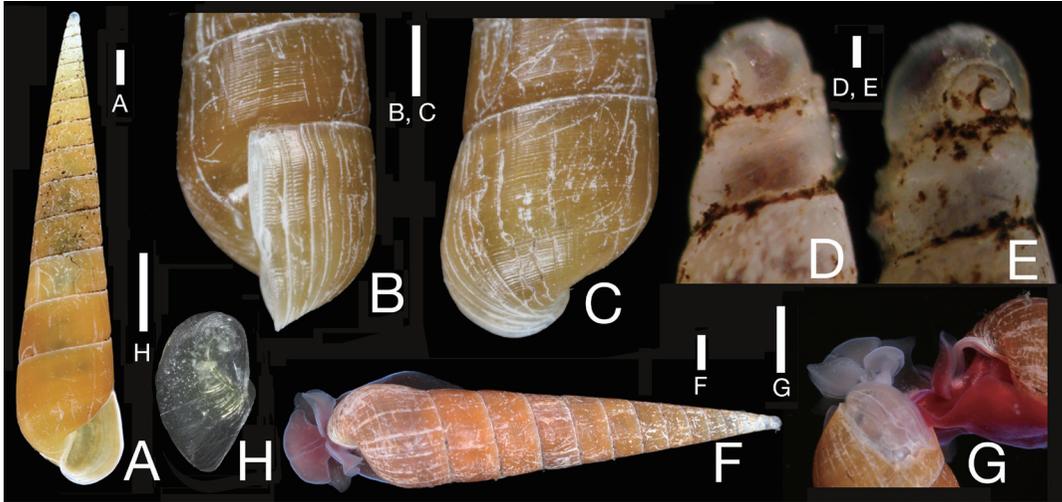


図1. ヌノメホソクチキレ *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872). A. 2005年7月3日宮崎市一ツ葉入り江の採集個体；B & C. A 個体の体層拡大図（側面と背面）；D & E. A 個体の原核（ほぼ直交する角度から）；F. 生時のA 個体（背面）；G. 2009年8月26日に一ツ葉入り江で採集した生時の2 個体；H. A 個体の殻蓋。スケールは、D & E が 0.1 mm、それ以外は 1 mm を示す。
 Fig. 1. *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872). A. Specimen collected from Hitotsuba inlet, Miyazaki, on July 3, 2005, ventral view; B & C. Enlarged body whorl of the same, lateral and dorsal views; D & E. Enlarged protoconch of the same, two different angles; F. Living state of the same, dorsal view; G. Two different specimens collected from the same site on July 24, 2010; H. Operculum of the specimen A. Scales for D & E = 0.1 mm and those of others = 1.0 mm.



図2. ヌノメホソクチキレ *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872) のゼロパディング日付別の全観察個体。スケールは、1 mm および 10 mm を示す。
 Fig. 2. *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872). All examined specimens with sampling date and locality, ventral view. Scale = 1 mm (short) and 10 mm (long).

1D & E). 後生殻は3–13層で、各層の側縁は直線的で、殻底がやや丸みを帯びる (Fig. 1A). 殻長7 mm 以下の幼貝では殻底がやや角張る傾向がある (Fig. 2). 次体層では幅に対する高さが49–56%でやや短い。体層は殻高の27–40%であり、殻全体に対してやや大きい。殻表は殻皮に被われ、光沢のある淡黄褐色を呈する。縦走る成長痕が目立つと同時に、細かく等間隔の螺溝が見られる。大型個体の体層・次体層では上方に約30本、下方に約20本程度の螺溝が見られ、間に多少の平滑な面域を持つことがある (Figs. 1B & C). 縫合

部のくびれは弱く、目立たない。殻の全体は細長い円錐形で、螺層頂部は摩耗して白色を帯びることが多い (Fig. 1A). 殻の内面に内肋は見られず、平滑である。殻口は扇形で、明瞭で強い軸壁が1個ある。外唇は丸みを帯び、内面は平滑で、成長脈が確認できる (Fig. 1A). 殻蓋は角質で薄く、褐色を帯びた半透明で、核は著しく偏る (Fig. 1H).

軟体部は、薄い赤を帯びた白色から、真紅まで、多少変異するが、基本的に赤を帯びる (Figs. 1F & G). 軟体部には白色線状の斑点模様が散在する。頭部触角は三角形ではなく、前後縁に丸みの

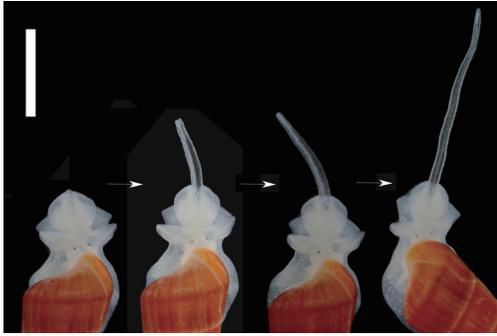


図3. 2009年7月4日に一ツ葉入江で採集したヌノメホソクチキレ *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872) の物の翻出状況。スケールは、1 mm を示す。

Fig. 3. Time series photographs of proboscis extruding state of *Iphiana tenuisculpta* (Lischke, 1872) collected from Hitotsuba inlet on July 4, 2009, dorsal view. Scale = 1 mm.

ある木の葉状で、中央部がやや高く、先端部は細くなる。触角の付け根に丸い眼が1対あり、眼4個分程度離れて位置する (Fig. 1G)。口吻基盤は先端が広く丸いへら状になり、中央に浅い窪みがある (Fig. 1H)。翻出された吻は極めて細長く、殻長程度であった (Fig. 3)。腹足は左右に拡がり、先端がやや丸みを帯びる。殻が厚く、殻皮に被われ、透過しないため、外套器官は観察できなかったが、黄色の器官様構造を確認できることもある。

本属の特徴は、殻表に細かく等間隔の螺溝が見られることで、*Syrnola* 属とはこの点で区別される (Dall & Bartsch, 1904)。同属の日本産種はヌノメホソクチキレ以外に2種が知られている：ミラヌノメクチキレ *Iphiana mira* Yokoyama, 1922 およびシバナヌノメクチキレ *I. siva* Yokoyama, 1922。WoRMS (2025) には有効名として5種がリストされているが、上述のシバナヌノメクチキレは含まれていない。その中で2種、*I. danieli* Peñas & Rolán, 2016 および *I. microperforata* Peñas & Rolán, 2016 は深海産の紡錘形小型種 (殻長3 mm 程度) でヌノメホソクチキレとは容易に区別される。フィリピンやサモアの潮間帯下部から知られる *I.*

densestriata (Garrett, 1873) は、WoRMS (2025) にタイプ標本の写真が掲載されており、螺層側縁が丸みを帯びるため、側縁が直線のヌノメホソクチキレとは概形だけで区別できる。日本産のミラヌノメクチキレおよびシバナヌノメクチキレは上種と同様に側縁に丸みがあり、ヌノメホソクチキレとは区別できる。Yokoyama (1922) でもミラヌノメホソクチキレとヌノメホソクチキレの類似に着目しているが、とりわけ体層部分の丸みが前種では著しいため、別種としている。

引用文献

- Dall, W.H. & P. Bartsch. 1904. Synopsis of the genera, subgenera and sections of the family Pyramidelloidea. Proceedings of Biological Society of Washington. 17: 1–16.
- Garrett, A. 1873. Descriptions of new species of marine shells inhabiting the South Sea islands. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia. 25: 209–231, plates 2–3.
- 堀 成夫, 2000: トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 1105–1123, pls.408–422.
- 堀 成夫, 2017: トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 702–729, pls.350–363.
- Lischke C.E. 1872. Diagnosen neuer Meeres-Conchylien von Japan. Malakozoologische Blätter. 19: 100–109.
- 三浦知之, 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社, 鹿児島, 197 pp.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025. 南九州で記録されたトウガタガイ科貝類2種: コヨウジクチキレおよびヒトスジホソクチキレ. Nature of Kagoshima. 51: 299–302.
- 成ヶ島探見の会. 2023. 由良湾・成ヶ島周辺の貝類 (2022改定版). 奥井印刷. 南あわじ, 6+14+35 p., 178 pls.
- Peñas A. & E. Rolán. 2016. Deep water Pyramidelloidea from the central and South Pacific. 3. The tribes Eulimellini and Syrnolini. Universidade de Santiago de Compostela. 304 pp.
- 土田英治・堀 成夫. 1990. 山口県立博物館所蔵のトウガタガイ科貝類の再検討 (3). Revision of the Family Pyramidelloidea (Gastropoda : Opisthobranchia) in the Yamaguti Prefectural Museum (3). ちりぼたん. 21 (1–2): 25–31.
- Yokoyama, M. 1922. Mollusca from the upper Musashino of Kazusa and Shimosa. Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo. 44: 1–200+viii, pls. 1–17.
- WoRMS, 2025. <<http://www.marinespecies.org>> (2025.3.25)